

今年も、幼児から中学生まで、千数百点の海の絵が集まりました。モチーフは、客船や漁船、帆船やタンカー等の船舶、漁港や明石海峡大橋等の風景、魚やカニなどの海中の生物が見られ、構図や色彩にも子供らしい創意に溢れていました。

幼児の絵は、感じたままに、想ったままに、主題がストレートに表現されています。その何ものにも囚われない、のびのびとした表現は、新鮮な感動と驚きを与えてくれます。描いているときの、嬉々とした表情さえもが伝わってくるようです。

小学生は、低学年が対象を感覚的に認識しているのに対して、高学年になるほどに客観的に捉えようとしています。低学年の絵は、素直でダイナミック、個性的なものが多かったです。高学年は、構図や色彩に工夫がみられ、豊かなイメージの世界を見事に表現した独創的な作品が多く見られました。

中学生の絵は、極めて写実的です。対象の正確な描写はもちろんですが、その場の空気感や遠近感などを巧みに表現しています。細部や質感へのこだわりもあり、時間をかけて納得するまで描き込んでいます。主題もしっかりしていて、それを意識して様々に工夫している様子が伝わってきます。

皆様方には、立ち止まって、ゆっくりと子供たちの作品を味わっていただけたらと思います。そして、海に親しみ、海を舞台に活動をしている海運・造船・港湾・物流・水産・海洋レクリエーションなどへの関心と知識を深めていただくとともに、子供たちの感性豊かな創造力や個性を味わっていただければ幸いです。

神戸市小学校教育研究会 図工部長  
鋏 田 和 見